

近隣の見守りシステム

『ごんの灯り』～岩滑地区の取り組み～

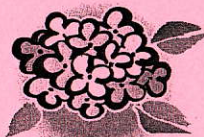
岩滑高山地区の六軒の民家には、昼の間も「ポツ」と光る青いLED電灯がともされています。やがて夜になると住人がスイッチを切り替え、青からオレンジの電灯がともります。

この灯りは、その家に暮らす方(独り暮らし・高齢者)が、「私は今日も元気ですよ!」というメッセージを周囲に伝えているもので、岩滑区がすすめている『ごんの灯り』です。

青色からオレンジへスイッチを切り替える時間に決まりはありません。住んでいる人のリズムでよいのです。やがて周囲の住民がそのリズムを理解するようになり、リズムが狂った時に異変を察知して対応します。仮にそれが「つい、うっかり」だとしても大丈夫。駆けつけた人との暖かなコミュニケーションの一幕になるだけです。

「見守られつつ「見守る」ことは、近隣との繋がりを生み、人と人との関係を育みます。地域住民はどなたも社会の大切な一員です。ある住民の方は、「『ごんの灯り』を設置してから、気持ちや考え方が前向きになりました。」とおっしゃいました。

また、この電灯を設置した家は、高齢者宅であっても周囲から見守られている家ということで、防犯効果も絶大なのだそうです。



～新美南吉生誕100年に寄せて～

「狐」は、夜祭を見に行った帰り道、狐につかれたのではないかと気味悪がられる文六ちゃんと、文六ちゃんを取り巻く子供たちの疑心暗鬼の心がユーモラスな筆致で書かれています。帰宅後、「ぼくがほんとうに狐になったらどうする?」と尋ねる文六ちゃん。この問いに始まる母と子の問答には、子を思う母の深い愛がこめられています。

4歳で生母と死別した南吉にとって、この文六ちゃんのお母さんの姿はきっと「母親の理想像」だったのでしょう。

「狐」は南吉が亡くなる日からわずか2ヶ月ほど前に創作された作品で、咽喉結核によるのどの痛みをこらえながら必死で書き上げたのです。同時期の作品には「小さい太郎の悲しみ」「疣」があります。

平成25年(2013) 6月

NO.56

発行/特定非営利活動法人 りんりん

半田市岩滑高山町5丁目4番地

TEL(0569)21-3646 FAX(0569)32-6623

http://rinrin.or.jp E-mail npo@rinrin.or.jp

ありがとうございます

皆さまのあたたかいご支援が
りんりんを支えています。

ご寄付ありがとうございます

伊藤 雄二

高山 利光

荒木 琴美

(敬称略)

平成25年度賛助会員

安藤 幸子

石川 雅子

市野 幸子

市野 健三

市川 幸夫

加古 淳子

川井 滋子

木村 静子

清田 友子

鞍田 まち子

小林 叡子

近藤 直美

榊原 綾子

榊原 紀子

榊原 初美

榊原 裕子

榊原 幸宏

佐藤 千栄子

沢田 伊佐男

鈴木 善一

須賀 幸子

高山 利光

竹内 大子

竹内 政子

竹内 ふみえ

寺本 由美子

蟻川 英子

堀 松美

三輪 麗子

中川 桂子

中川 八栄子

新美 巴

休波 京子

吉川 智子

吉田 房子

吉田 二三子

匿名

(敬称略)

りんりんのできごと

～ヘルパー研修会～

4月 これからの障がい支援/地域の活動 48名

5月 援助中の事故防止 55名

多世代交流事業

	4月	5月
絵手紙	10名	7名
さをり織り	21名	22名
生き生きサロン	162名	219名
小物づくり	7名	11名

(延べ利用人数)

会員数

協力会員	利用会員	賛助会員	合計
108名	38名	28名	174名

(H25/5月末現在)

特定非営利活動法人 りんりん



一年度の初めに思うこと

新体制になって初めての総会を5月26日(日)無事に終えることができました。この一年は、たくさんの方々に支えられての一年であったことに、改めて感謝申し上げます。

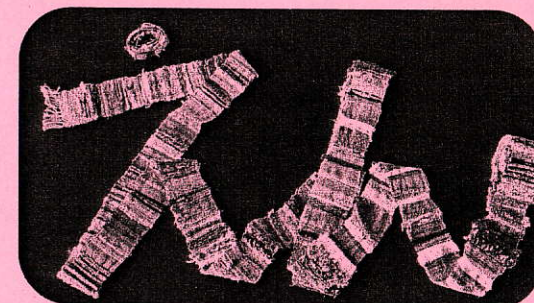
この4月から毎月第一月曜日に「サロンごえん」をスタートさせました。第一線での活動を卒業された協力会員さん、賛助会員さんを中心に「何ができるか」を考えながら、そして「楽しく・・・」まだまだ活躍できるその力を発揮していく場です。次世代を担う子供たちや若者たちを後方から応援していきます。

たとえばインターネット上ではなく顔を見てつながる安心感や、暮らしの中から得た知恵やヒントを人生の先輩として伝えていくことは、「サロンごえん」の大事な役割です。

春休みにりんごクラブ(放課後児童健全育成事業)のこどもたちと昼食を共にする機会がありました。一時間ほどのことでしたが、それはびっくりの連続で、サロンのメンバーは人生の先輩として、その役割を痛感しました。そしてまた、何よりもメンバーそれぞれが元気に年を重ねていくこと、仲間がいること、ひいては介護予防にも繋がっていきます。これから大事に育てていきたい部門です。もちろんケアマネジャー、ヘルパー、デイサービスなどの専門部門も今まで同様に丁寧に事業展開していきます。

「縁」をつないで人と人がつながり、それが丸い「円」になっていくように・・・それはりんりんの役割のひとつです。

代表 下村 裕子



— りんりん監事さんの横顔 —

ご恩返しの出来る人生に感謝

森 邦弘

71歳になりますが、サミエル・ウルマンの詩「青春」「青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ年を重ねるだけで人生は老いない(中略)」を座右の銘として日々過ごしています。幸い健康に恵まれ70歳まで現役で勤めることができました。化成品販売の小企業でしたが総務、経理、営業と経験でき、業界団体の事務局を兼務したりで多忙でしたが、全国を走りまわるなどビジネスマンとしての誇りが生きがいでもありました。

61歳の時、縁をいただき岩滑区の区長を拝命し、名古屋勤め(非常勤にしてもらいました)と兼任で3年間無事勤めることができました。区長在任中は多くの皆さんの助けをいただき言葉では表現できませんが、感謝とお礼の気持ちでいっぱいです。そのご恩に少しでもお返しできればと、地域のために私でもお役に立てればと、過ごすこの頃です。

誰もが違いを認め合える場にて幸せ

三輪りな子

障がいのある子どもたちとの38年間の私の教員生活でした。昨年の3月に退職を迎えましたが、内21年間(県立半田養護学校13年間、県立ひいらぎ養護学校8年間)は、半田市でお世話になりました。住まいのある東海市よりもなじみ深く、愛着のある町となり、岩滑も大好きな地となりました。

南吉作品の心を演じたくて、練習に明け暮れた子どもたちとの日々。秋風に吹かれてのんびりと、コスモスを愛でた車いすの子どもたちとの散歩。子供たちはりんりん周辺の散策が大好きでした。そんな散歩の折に、当たり前のように言葉をかけてくださる人がいました。

「休憩にりんりんを使ってください。水分補給やトイレ休憩で一休みしてください。」りんりんの村上さんでした。心とむ散歩となったこと、忘れることができません。

そんなご縁で、りんりんさんと私とのお付き合いが始まりました。今ではお役までいただき、りんりんの一員になった気分です。子どもから高齢者まで、健常な方も障がいのある方も誰もが違いを認め合える「りんりん」という場に、身をゆだねる心地よさに浸っています。

りんりん 総会



緑の風が吹き渡る5月26日(日)りんりん総会がひらかれました。事業報告、会計報告、理事紹介とつつがなく進み今後も「地域と共に」を基本理念として活動していくことを確認しました。また、協力会員の10年勤続表彰も行われ、7人の方々に下村理事長から、謝意と共に花束がプレゼントされました。

第2部は、朗読グループ「泉の会」の小栗春代さん、中野富恵子さん(りんりん会員)の朗読です。よく透る声と聴く人を引き込むような読みに、ここ岩滑を舞台にした新美南吉の物語の世界(ごん狐)などを堪能しました。

続いて、馬頭琴の演奏です。モンゴルの民族衣装を着た「ならんぼあら」(太陽の花ひまわり)の夏目ひさよさんによる演奏です。初めて見る楽器。初めて聴く音色。そしてきらびやかな衣装に皆さん興味津々。日本の曲、モンゴルの曲、5曲ほどが演奏され、悠久の時の流れを感じさせるようなゆったりとした音色にしばし、日常を忘れ心地よいひと時を過ごしました。



勤続10年表彰式

皆さんに一言ずつ
いただきました

りんりんのキャッチフレーズの1つでもある「0歳から10歳まで」を身をもって体験しながら仕事をさせてもらっています。関わる年齢層も幅広く、援助の内容も多様で、友達にどんな仕事を説明するのに困るほどですが、笑顔のキャッチボールをエネルギーに、細く長く続けていけたらいいと思っています。

氏家 裕子



この10年でたくさんの方に出会いました。たくさんの方と接する事で、私自身も勉強させて頂きました。これからも出会いを大切にしていきたいです。楽しみながら働いていたら良いなあと思います。

新海 充恵

今後の両親のために少しでも介護ができるようにと軽い気持ちでヘルパー2級をとりました。少しだけ仕事をするつもりで今日までやってきました。両親のためにと思った私の予感は当たってしまい、ヘルパーの技術が役立っています。

末永 博愛

軽い気持ちでヘルパーになり、しばらくして辞めるつもりでしたが、皆様の優しい言葉に救われて、今まで続けることができました。また、色々な経験をさせていただき、母の介護にも大変役立っております。これからも元気で仕事がしたいと思っています。

竹内 明巳

最初の月から入浴介助や清拭、足浴をさせて頂き、先輩からも手順や注意事項などいねいに指導していただきました。今も介護の手順はその時教えてもらったことが土台になっています。利用者さんからもいろいろ学ばせて頂きました。

寺田 文子

20代後半でヘルパーの資格を取得し、りんりに勤務するようになってから長いようで短い10年間でした。この間コーディネーターやデイサービスのスタッフなどいろいろな仕事をさせていただき大変勉強になりました。

古川真由美

一度しかない人生の後半で、すばらしいりんりんとのお出会いがあり、私の好きな仕事をさせて頂いています。事務所の方に支えられながら皆さんの利用者さんと接し、ヘルパー仲間とのつきあいも広がり充実した10年を過ごさせて頂きました。今後も健康に注意してがんばります。

三浦 明子

